



小中一貫教育だより
学校教育課・教育センター版
平成29年5月31日 No.1
(小中一貫教育推進だよりから 通算No.72)
十日町市教育委員会学校教育課



心の眼

十日町市教育長 蔵品 泰治

教育長室に、「見えないもの見える眼 聞こえないもの聞こえる耳 知らないもの知って居るからだ」と友人が書いた額を掛けています。この書は、河井寛次郎の「いのちの窓」の詩の一節です。これらの文字は直接的には理解しがたいのですが、私は、「眼」を「心の眼」、「耳」を「心の耳」、「からだ」を「心のからだ」と読み替えてみると、「心」のありようを戒めて表現しているように感じて、毎日座右の銘のようにして見えています。サン・テグジュペリの「星の王子さま」の「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」という表現と重なります。

子どもたちを教育する、指導するという「職」に就いている私たちです。教育課題が山積するなか、課題解決に向け子どもたち一人ひとりをどのように見ているのか、見なければならぬかが問われます。さらに私自身、教育行政の責任者として、教職員の皆様を含め学校全体をどのように見ているのか、見なければならぬのかも問われます。

このようなことから心の修養のため、月1回の早朝座禅会に参加するようになりました。まだ十分には座禅の作法も身に付けられないのですが、当日が心待ちになるような自分自身の変化にうれしく思っています。「継続は力なり」なのでしょう。

さて、29年度がスタートして2か月が経ちました。全ての子どもたちが生き生きと学び育まれるよう、教職員の皆様とともに汗を流し、4年目を迎える小中一貫教育の実を上げ、市民の期待に応えていきたいと念願しています。

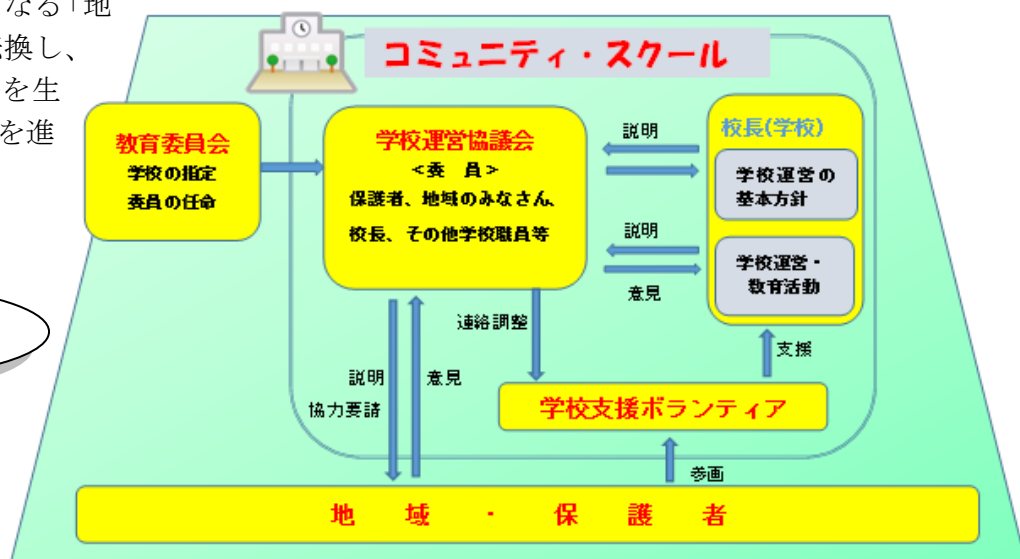
「コミュニティ・スクール」モデル校が始動

十日町市では平成30年度より全小中学校でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を導入します。どの学校もスムーズなスタートができるよう、教育委員会は今年度、「中条小学校」「中里中学校」の2校にモデル校の依頼をしました。

それを受け、中条小学校は4月10日（月）、中里中は4月19日（水）に第1回学校運営協議会が開催されました。モデル校の取組発表会は2学期後半に予定しています。

「十日町市学校運営協議会の設置等に関する規則」で協議会の委員は保護者、地域住民、学校長、教職員、学識経験者、関係機関の職員、学校支援地域コーディネーター、公民館長等13人以内で構成されます。協議会は年数回開催され、学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換し、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことができます。

学校教育課



中里中学校
第1回学校運営協議会の様子
<協議会内容>

- コミュニティ・スクールの意義
- 組織構成と自己紹介
- 平成29年度の学校運営
 - ・説明と質疑
- 協議会への要望
- 今後の予定




学習指導班

子どもたちの
「~たい!」を
大切に!!



5月17日（水）、千手中央コミュニティセンターにて、各校の研究主任を対象とした学力向上推進会議を実施しました。中越教育事務所学校支援第2課の水鳥繁満指導主事を講師として、「研究主任の役割と次期学習指導要領の趣旨を踏まえた校内研究の方向」について学びました。

キーワードは、ズバリ「」…参加者はたくさんのヒントを持ち帰ったことと思います。これからの校内研修に大いに役立てていただきたいと思います。なお、希望する学校は、要請訪

問も可能ですので、中越教育事務所の水鳥指導主事にお問い合わせください。以下は感想です。

いつの間にか問題を解く楽しさで夢中になっていました。明日から、『子どもたちが学びたい、調べたい、追究したい』気持ちになる学習をつくっていくことが楽しみになりました。

『受動から能動へ』を実現するための授業改善に全校体制で取り組んでいこうという気持ちを新たにしました。水鳥先生より演習をしていただき、子どもの「🐟」を引き出す授業づくりを頑張っていこうと思いました。



…余談ですが、この🐟を貼り付けるのに思ったより時間がかかりました。水鳥先生のお話ではありませんが、やはり、🐟を引き出すには、それなりに時間をかける必要があるのですね（笑）。

「家読(うちどく)」を推進します!!

市報 5月25日号をご覧くださいませ。

これは、「子ども読書活動推進計画（H28年4月策定）」に基づく取組みです。学力向上対策の取組みの一つと思われがちですが、4月の校長会でも説明させていただいたとおり、「家族で本を読んでコミュニケーションを図ったり、家族の絆づくりに役立てたりする」ことを目的としています。当市の学校教育の重点課題である「不登校の減少」を目指す上で、家族を巻き込んだ心の教育は重要だと考えています。

既に「家読」を中学校区での取組みとして位置付け、実践しているところもありますし、1中学校区1言語活動の取組みに位置付けているところもあります。各校での積極的な「家読」の推進をお願いします。

学習指導班



小学校ほうかご寺子屋塾 ～続々とスタート～



今年で6年目を迎える寺子屋塾事業。スタート当初は市内3校でしたが、平成27年度に市内全小学校で開設し、今年度は、5月22日（月）の吉田小、千手小、貝野小、松代小、まつのやま学園（小）を皮切りに市内18校で続々と開塾式が行われています。今年度の参加者総数は415人です。対象児童の約3分の1が参加していることになり、ほぼ昨年度並みの参加率です。

小学校ほうかご寺子屋塾の目的は、「自主的な学習に取り組めるようになる」ことです。一斉講義形式でなく、黙々と学習に取り組むことを基本として

学習指導班

います。週1回の時間ですが、自主学習の力、意欲が高まるよう運営に努めていきます。各校のご理解、並びに、参加児童への励ましなど、ご協力をお願いいたします。

教育相談班



特別支援教育の充実をめざして「特別支援教育研修講座」

教育センターでは、特別支援教育における教職員の指導力向上や校内体制づくりの強化、保護者等への啓発を目的に、特別支援に関わる研修講座を、年間10回のシリーズで実施しています。

◇5月1日(月)に第1回研修講座を開催しました。ふれあいの丘支援学校の長谷川紘校長先生より『コーディネーターの役割と校内体制づくり』について、管理職である校長や教頭、特別支援教育コーディネーターを対象に講演をしていただきました。通知に基づいた特別支援教育の起こりや理念の根拠、学校現場における体制づくり、ケース会議のポイントなどについて分かりやすくご教示いただきました。

◇5月10日(水)には、主に特別支援学級や通常学級の担任を対象とした第2回特別支援教育研修講座を行いました。県立吉田特別支援学校の柳原範子教諭より『特別支援教育の実際～支援ツールと対応例～』と題して、講演をしていただきました。かつて十日町市立六箇小学校に勤務した経験のある柳原先生からは、子どもの様々な困り感(ニーズ)に対する効果的な支援ツールの活用の在り方を、豊かな実践例をもとに具体的に学ぶことができました。



学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～6・7月～

6月3日(土)	土曜英会話寺子屋塾・開塾式 【中央公民館会場、千手コミセン】	2会場で小学生46人、中学生20人が申込み
6月9日(金)	学力向上推進フォーラム【南魚・大和庁舎】	※県の事業
	支援の必要な児童生徒に対する個別の指導計画の有効な活用【川西庁舎】	講座
6月13日(火)	新採用若手事務職員研修【博物館、総体】	3年目までの事務職員が対象
6月15日(木)	エキスパート教員研修【南中】	南中の松井先生を講師に中1の学年学級経営について研修
6月20日(火)	プロに学ぶ～授業力向上研修【田沢小】	筑波大附属小の山田先生を講師に「道徳」の示範授業と講義
6月27日(火)	ふるさと信濃川教室・スタート	7月19日(水)まで
6月29日(木)	小中一貫教育研修会(講師:大類由紀子氏(文科省教育制度改革室室長補佐)【千手コミセン】	講演:小中一貫教育の先進的取組の成果と今後の展開
7月5日(水)	特別な支援を要する幼児を含むすべての子どもへの対応・段階的な対応【千手コミセン】	新潟大学長澤正樹教授を講師に講演
7月27日(木)	図書委員会サミット【情報館】	図書委員と担当が集合。H27年度に続き2回目の開催
	いじめ防止対策研修会【千手コミセン】	いじめを生まない学校づくりの講演

このほかに、各種学校訪問、学力向上専門監事業は計画に従い実施します。

【表紙の説明】

まつのやま学園で始まった「E+タイム(英語教育)」授業。6年生では、小中一貫校であることを生かして、中学校の英語教師が小学生に英語の授業を行っています。4月13日(木)には関口市長が授業を視察しました。